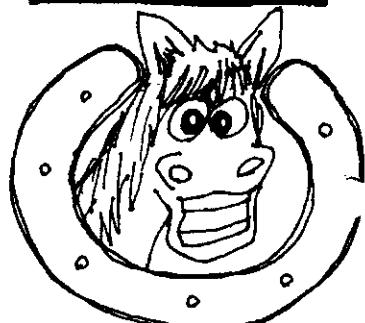


土岐・運・来



会報 「土岐・運・来」 第五号
発行日 一九九八年十一月十三日
問い合わせ先 〒250-10045
小田原市城山1-1-11
代表 横井 広利
TEL 0465-32-1308 Fax 0465-32-1332

活動報告

九月二十日(日)旧三の丸小跡地で乗馬会

参加会員四十一人・ボランティア十九人・実委七人

まだ夏の日差しが残っているような暑い一日。休息時には、馬も人も木陰に逃げ込み水分補給に一生懸命だった。

運動会シーズンとありいつもに比べると騎乗者が若干少なめだったけれど、今回が二回目のさがみ信金の方々や久し振り参加の高校生ボランティアなどサポートの手が豊富で、ゆつたりと静かに時間が流れているようだつた。

何回か遊びに来てはいたけれど、どうしても馬に乗ることができなかた車イスの「ぐちやん」。小さな動物さえも怖くて触れないということだったのに、みんな

が乗っているのを見て恐る恐るしつばを触ることから始まってとうとう馬に乗ってしまったのだった。お母さんがたいへん喜んで、担任の先生に話してびっくりさせてあげようと語つておられた。馬の背中で微笑んでいる「ぐちやん」を見て、馬に乗ることを無理強いせず、ずっと見守り続けてきたみんなにもうれしい一日だった。

十月十一日(日)三の丸小跡地で乗馬会

参加人数 事前申し込み五十三人、当日申し込み九十四人、ボランティア三十人。

穏やかで最高の馬日和でした。

今回は、いつも手伝ってくれるボランティア以外に会員のご家族の方が三人も手伝ってくれました。会員同士が互いに支え合つてくれました。会員同士が互いに支え合う会になればどんなに心強いだろうと思いました。今回からの個人の記録カードを作りました。

十一月八日(日)ゆめ国体イベント参加 小田原より馬四頭、人二十三人車に積み込んで保土ヶ谷まで出かけてきました。当日、ともしび財団のボランティア十六名が協力して下さる事になつていましたが、その日だけ、馬は初めて、というのであまり期待していな

このカードは、その日にやった「」や騎乗者の様子などを書くものです。まだ形式は整っていないのですが、とにかく始めてみて最適な形式にして行くことにしました。サイドウォーカーの休憩時間に書いてもらつたので、休む時間もなくかなり大変な思いをさせてしまいました。この記録は、御本人や付添の方にも是非見ていただきたいと思います。

このカードに、顔写真を貼つたり、騎乗するときの注意事項をより詳しく書くことになりました。危険防止やより楽しい乗馬のためのヒントにするためです。近い内にお便りで写真や情報提供のお願いをいたします。よろしくご協力ください。

かつたのです。ところが集まつてみると皆さん「何かやるぞー！」という顔つきで、年齢も様々。高校生らしい男の子から熟年ご夫婦、鴨宮から来られた「これでももう私七〇才過ぎてるのよ。」と皆をおどろかせた素敵なご婦人など皆さん、にこやか！ だんだん増えるお客様に伴いボランティアの方達もだんだん慣れて、午後のピーク時には時間延長にもかかわらず元気な声で馬上の人々に声を掛けて下さっていました。

乗馬した人、約六〇〇人。息子さんに押された車椅子のおばあちゃんが、スルスルと馬に引き寄せられる様に近づいて来られ、「一生に一度の事だから乗つてみましょ。」と馬上で気持ち良さそうに揺られていました。「一度と言はず、何度も乗つて下さい。」と実行委員の天野さん。小さな子どもを連れた若夫婦も多く、親子でつぶしに乗馬。子どもはぐずつても「お父さん！ 楽しんでるでしょう！？」「ハイ！」

昼休みは、草の生えている木陰で休憩した馬達。モゾモゾと雑草を食いちぎる馬達を見て「思いかけず、こんな所に馬達の休む場所があつてよかったです。」と馬主、高橋さん。サドルバックからは長旅だったし、好天過ぎる一日で、ずっとグルグル回つていたんだもの、お疲れ様、と言いたい所だが、休んでいてもそれを見つけて寄つてくる見学者多数。さすがアイドルは休めない（？）

私達は、あくまでも小田原の自然・馬・人の会だけど、今日は横浜のボランティアの方達に出会えてよかったです！ たくさん初めて

の人達が、馬を通じて仲良くなれてよかったです！ そして、小田原ボランティア有志四名が小田原で重ねた経験で、ずいぶん力量アップして今日一日を支えてくれていた、という事を発見した私は、とても嬉しかったのです。（ま）

ドイツ乗馬療法講習会に

参加して その①

九月の上旬二日間のわたり、ドイツで乗馬療法に携わっているアンゲリカさん（理学療法士・乗馬療法士）とマイアさん（乗馬指導者）の指導で行われました。自然・馬・人の会からは三人（謙二、ますみ、中村）が参加しました。

講習会の大まかな内容を一回にわたり書いていきたいと思います。

まず印象に残つたのは、お二人の馬に対する深い愛情、一緒に療法を行うパートナーとして寄せる信頼の大きさでした。

乗馬療法について

ドイツでは、乗馬療法を広い意味でとらえると、治療的乗馬（狭い意味ではこれを指す）、教育的乗馬、スポーツとしての乗馬の三つに分けるそうです。

治療的な乗馬とは、文字通り医療としての乗馬で、理学療法士（馬の専門家でもある）が行います。これは、馬の前後、左右、上下の回旋運動の揺れが人が歩行するときの動きに似ているのを利用して行うものです。

馬の揺れによつて姿勢がくずれそうになるの

を直そうとすることが、結果として、筋肉を鍛え、左右のずれを補正し、深い呼吸が出来、姿勢を維持できるようになります。そのため、サイドウォーカーの介助は必要最低限にする必要があります。乗馬の頻度は、少なくとも一週間に数回ということでした。

ドイツでは、乗馬療法が医療として認められ保険の対象となっています。（州によって差がある）



教育的、スポーツとしての乗馬は、課題を持つ(て乗馬をしたり、レクレーションとして乗馬を楽しむこと)です。

馬は、騎乗者が指示しないと動きません。そのため受け身でいることが多い人も外に信号を発信するようになります。一つ一つ課題をクリアすることで自信をつけていきます。

馬の操作について

馬の操作は、引き綱ではなく、サイドレーン(ロングレーン)を使い、操作を馬の後ろから行っています。(前項写真)

この方法のメリットは、「馬が自分で緊張し、自分で動きを作り出す(人が引き綱を引き作り出した動きは不自然になる)」「人と馬の動きがしっかりと見られる」です。ただ、「馬に対して理解が無いと難しい」「指先しか馬とつながっていないので事前の調教がかなり重要」等との説明がありました。

また、私たちと同様に引き綱を使うときにも、馬を引く人は馬の頭の少し後ろに立ち、馬の動きをじやましないようにします。あくまでもよく調教した馬の動きを信頼するのです。次回は、乗馬プログラムや馬のストレッチについて紹介します。(中)

“うま” 探险 その三

雄大な富士を望む御殿場高原。広々とした平地にそびえ立つティピー。手作りのログハウス風廬舎。そんなすばらしい環境の中にピッグマウンテンランチがあります。レストランの様な名前ではありますがRANCHとは牧場(主に馬の)の意味なのです。

元々は子どもの自然体験教室を経営されて、いる高橋一美さんが知人より馬を引き継ぐという形で今のような乗馬体験の場を創つていきました。

休耕田を利用した馬場にクオーターホースやアバルーサ、アラブなど8頭。外乗は檜林(杉ではなくヒノキなのです。)や田んぼの畦を散歩します。私達も馬の蹄跡を探しながら外乗コースを辿つて行きました。歩いて行くに従い日常空間とは違う懐かしさがこみ上げてきました。アスファルトではなく土の畦道、コンクリートの側溝ではない水路。そんな当たり前の空間がとてもありがたく感じてしまうのです。そんな訳で、ここはピーアールをしていないにもかかわらず県外か

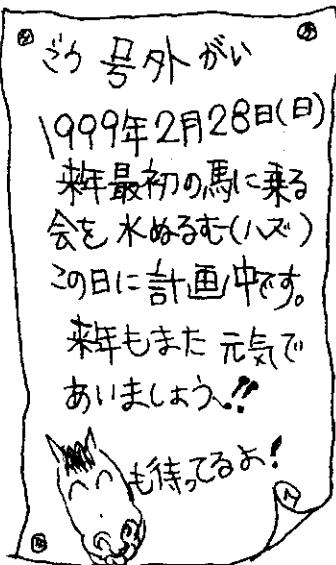
・ら希望者が相次ぎ、週末は予約でいっぱいという状況です。私達が訪ねた時も、馬に乗る我が子をみていた母親が、自分も乗りたいとチャレンジして、初めての乗馬で外乗までしていました。そんな親子の姿を見ていて、私達も、機会があつたら、会員の方やボランティアの方達と一緒に、富士を眺めつつ畦道外乗してみたいな、と思いました。(ふ)

・騎乗料金 一時間五千円・二時間七千円(数人で一頭借りる事も可能、など)の限りではないので事前に相談を。)

問い合わせ BIG MOUNTAIN RANCH II-41
2-0006 御殿場市中畑1558
TEL &FAX 0550-88-3139



協賛者(一九九八年九月十九日・十二月四日)北村初太郎様



訂正とお詫び 前号の協賛者欄のお名前を間違えていました。ここに訂正し、深くお詫び致します。

(誤)吾妻サク様

(正)我妻サク様

これから年の予定

* 一九九九年一月・馬に乗る会はお休みしようと思います。

* 一月三十一日(日) 実行委員会

来年度に向けて、会則の作成やNPO法人への登録(ここに登録すると法人として社会的認知を得られ活動しやすくなる)等の活動内容について話し合いをもらいます。会員の皆様も気軽に参加してご意見を出してください。

場所……小田原市一区公民館(城山中学校テニスコート横)

①実行委員
主として、月一回程度土・日に会合して会の運営に当たります。年会費二千四百円。

②乗馬会当日ボランティア
乗馬会のみ参加。バザーや乗馬でのお手伝いです。乗馬についての研修はします。参加費は無料です。

どちらも高校生以上。実行委員もボランティアも障害のあるなしは問いません。お時間の許す範囲でのご参加をお待ちしています。

申込み・問い合わせは、発行元まで。電話かFAX・手紙でお願い致します。お近くに実行委員がいる場合は、直接申し込まれてもかまいません。

一緒に活動してくれる仲間を募集しています。ボランティアをしてみたい。小田原で馬に乗つてみたい。自然が好き。いろんな人とめぐり逢いたい。そんな方々、少しでも「楽しそうだな」と思つたら、さっそく連絡ください。次の二つの種類があります。

①実行委員

主として、月一回程度土・日に会合して会の運営に当たります。年会費二千四百円。

小田原で自然と人とがふれあい、乗馬の馬が実現できるよう、今後ともご協力をお願い致します。

会費 年会費 二千四百円 (郵便振替)

保険料 中学生まで四百五十円

右記以外 千四百円

協賛金 一口千円 (現金書留または郵便振替)

振込先 00270・4・79944

自然・人・馬の会 櫻井 広利

Tel 0465・32・13308
Fax 0465・32・13332

ボランティア募集

会費について

会費の納入を、お忘れになつていませんか? ヘルメットの充実と、軽乗鞍(けいじょうあん・乗り手がつかまる取つてだけがついていて、はだか馬に近い状態で乗る事が出来る)の購入を検討しています。が、皆さんの会費が積み重なつて実現するものです。ご協力を。

